



グローバルゼーションという洗礼

令和6年8月5日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

アベノミクスは明らかに国内経済の空売りであり、独自経済システムと市場を有する日本がグローバル経済は完全に組み込まれることである。

これらが今日の大きな変化を与え、既存システムの完全な崩壊を与えているのである。

これら競争という厳しい現実においてグローバル基準における企業経営を要求されることは、企業が新しい現実への参加を余儀なくされることである。

これら視点の転換は、グローバル基準を受け入れれば良いということになる。しかしそれらへの正しい理解を伴うことが唯一それらを可能とできるのである。

これらは学術性や競争というルール、価格対比などにおいて、企業の効率性や生産性の追求などともに、今日のグローバル基準と現実を理解しそれらを行わなくてはならない。

これらはより優れた企業への転換であり、経営基準の転換を求められるのである。

しかしより優れた企業の現実はずしに伴う結果を約束するのである。

そのため国内基準からグローバル基準への転換は必ずしも間違いでないのである。

これらは就業への意識転換や、新しい企業運営システムの構築などにおいて、グローバル基準における企業経営を求めることは可能である。

他方においては、先端性という現実が存在することも認識しなくてはならない。競争というルールはより優れた現実を求めるのである。

そのため新しい企業への転換は理解とビジョンを明示し、新しい企業経営環境とともに企業の現実を変化させなくてはならない。

これらはより優れた企業体力と生産性への転換なのである。